

# 第2次東金市総合交通計画（素案）

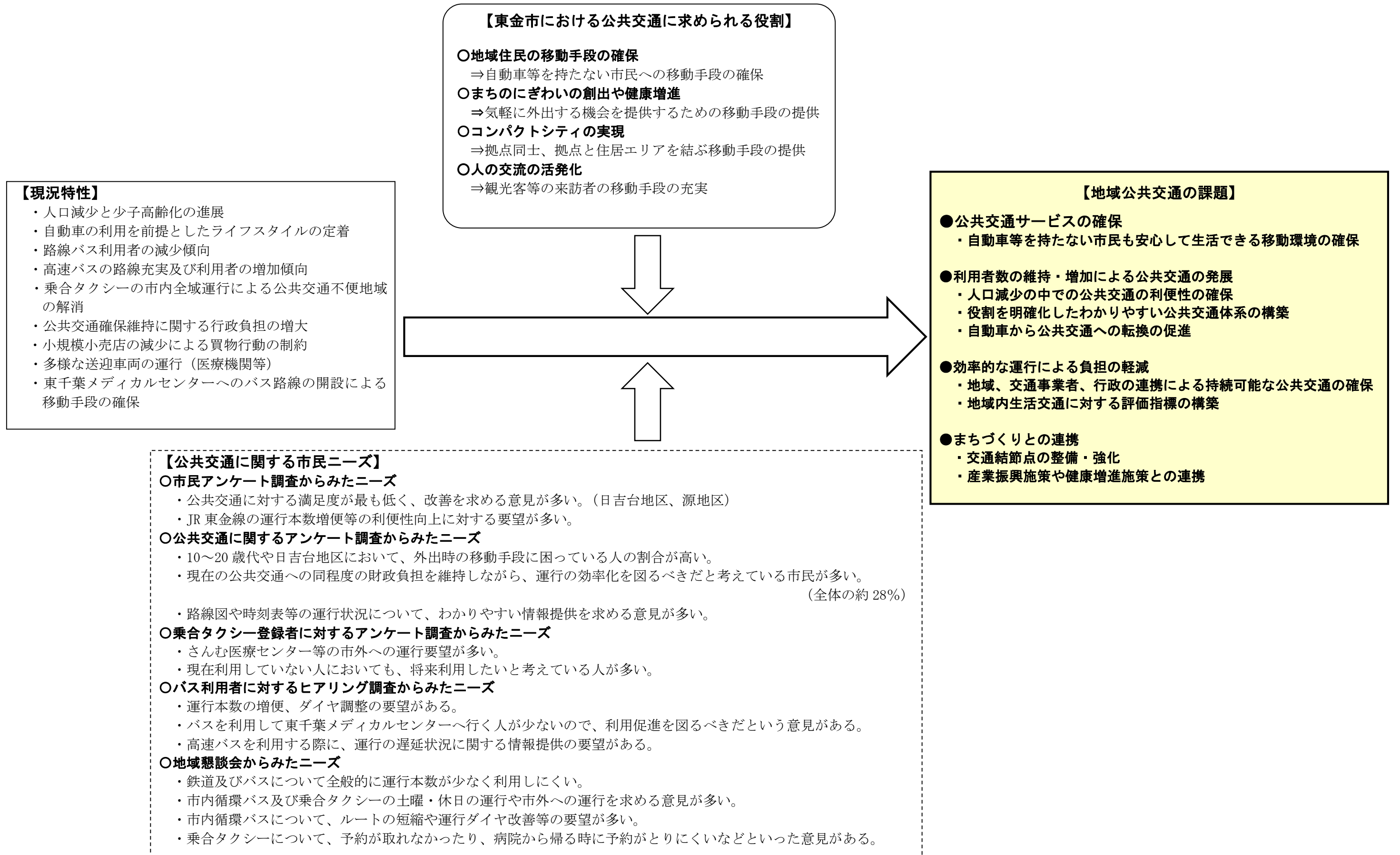
東 金 市



# 目 次

1. 地域公共交通の課題の整理 .....	1
2. 望ましい公共交通ネットワークのあり方 .....	2
3. 東金市における総合交通計画の基本的な方針 .....	5
3-1. 基本理念 .....	5
3-2. 基本方針 .....	5
3-3. 計画の区域及び計画期間 .....	7
4. 計画の目標 .....	8
5. 目標を達成するための事業と実施主体 .....	9
6. 計画の達成状況の評価 .....	18

# 1. 地域公共交通の課題の整理



## 2. 望ましい公共交通ネットワークのあり方

東金市においては、平成24年3月に策定した「東金市総合交通計画」に基づいて、鉄道駅等の乗継拠点を中心とした階層的な公共交通ネットワークに加えて、公共交通不便地域の解消等を図るため、乗合タクシーを導入し、平成26年4月からは市内全域での本格運行を開始している。人が集まるまちをつくるために、安心して生活できる移動手段を確保し、外出の機会を増やしていくための施策を継続して展開していくものとする。

また、近年においては、圏央道の開通により広域道路ネットワークが充実してきたことを受けて、道路網の強みを活かした施策を展開していくことが必要である。東金市第3次総合計画第4期基本計画や東金市まち・ひと・じごと創生 総合戦略といった上位計画にも位置付けられている高速バスの利便性向上やパークアンドライド型バスターミナルの整備といった施策の実現を目指していく。

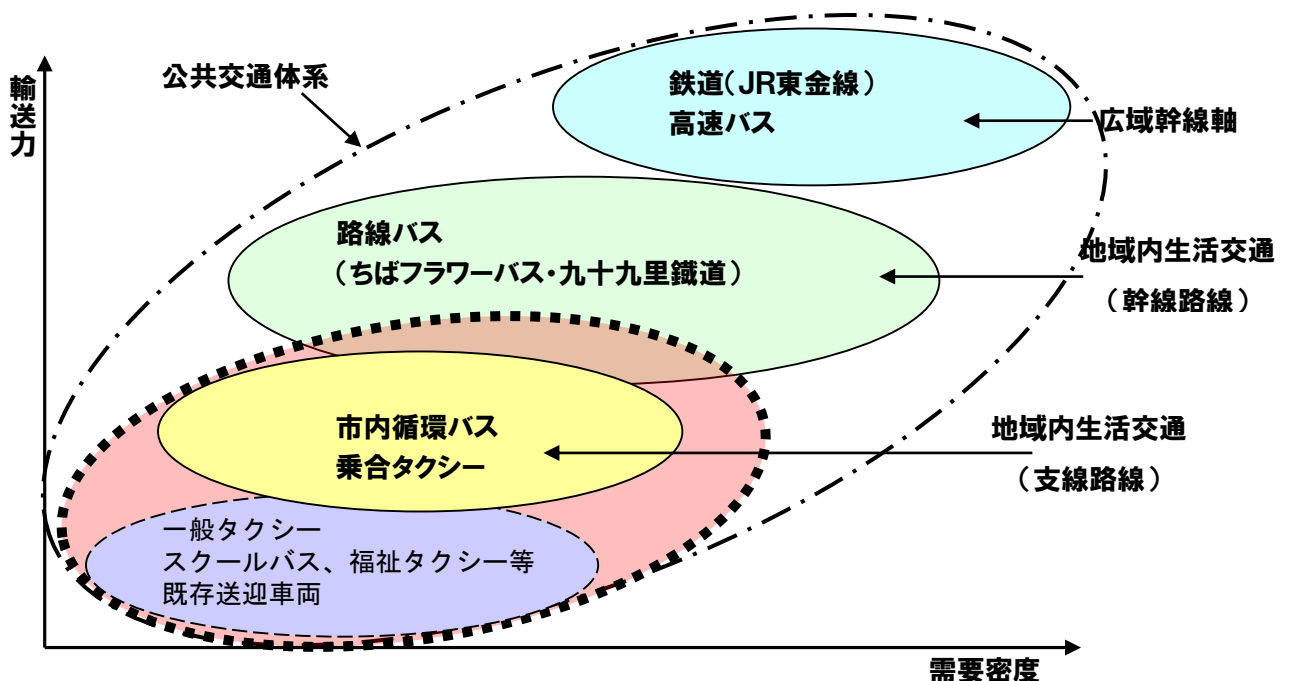
福岡地区及び豊成地区で運行している市内循環バスについては、市内循環バス推進委員会と連携して利用促進施策を強化するとともに、効率的な運行を実現するために、路線バスや乗合タクシーとの連携も含めて、明確な運行評価基準を設定していくものとする。

- 既存公共交通ネットワークの機能分担を明確にし、交通結節点として、東金駅・求名駅・福俵駅に加え、新たに高速バスの利便性を高める交通結節点を整備して、都市・地域間公共交通と地域内生活交通（幹線路線）との強化を図るとともに、地域内生活交通（支線路線）である市内循環バス及び乗合タクシーの運行の効率性や利便性向上を目指す。

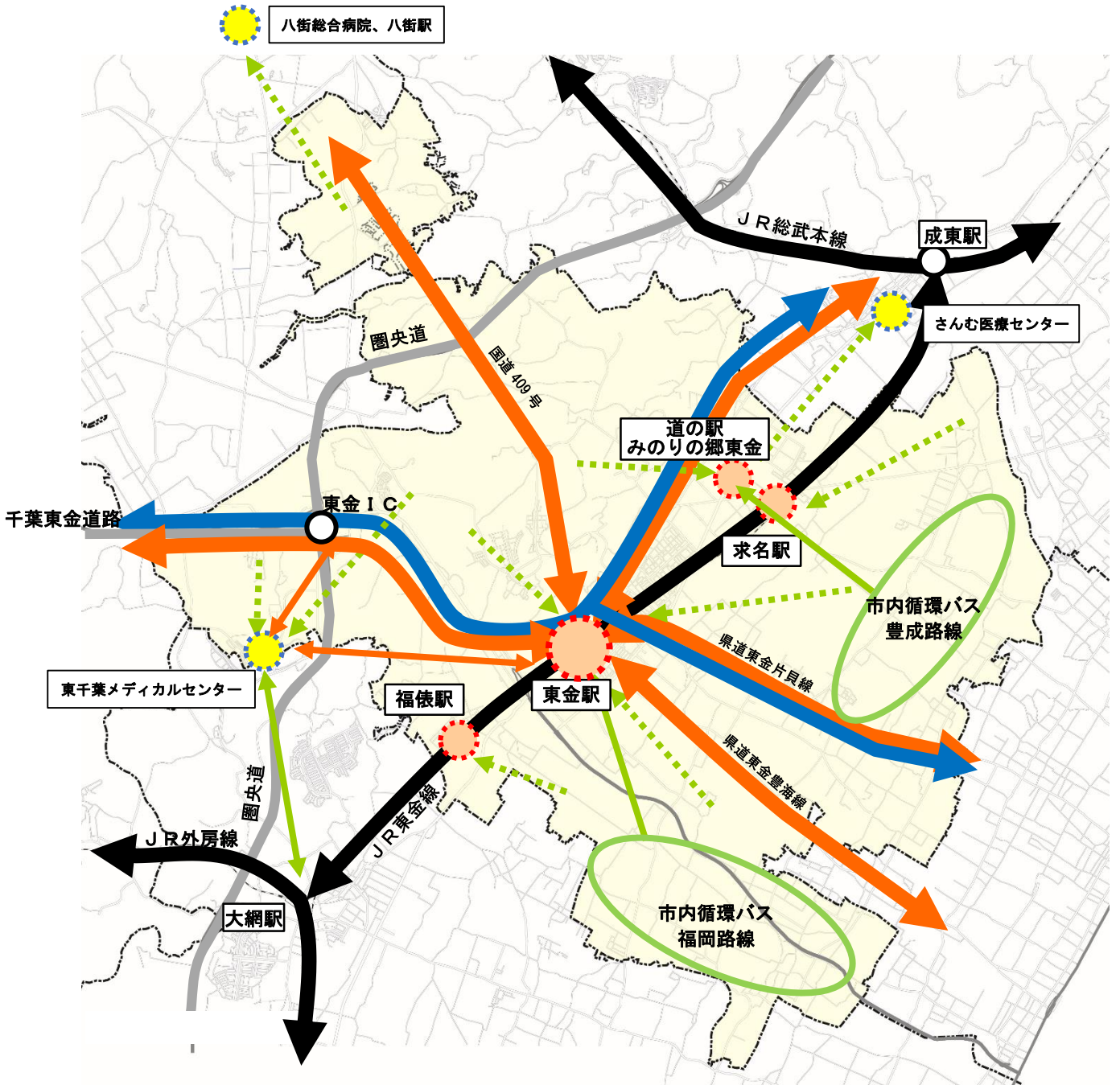
■公共交通システムの機能分類及び性格

機能分類		性格	対象
都市・地域間公共交通	広域幹線軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市間の骨格を形成するために重要な役割を担う交通</li> <li>通勤、通学、買物、観光等の多様な目的に対応し、広域的な長距離需要に対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鉄道（JR 東金線）</li> <li>●高速バス</li> </ul>
地域内生活交通	幹線路線	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間バス路線のうち都市間連絡や市内幹線交通網を形成する路線</li> <li>市外への通勤、通学、買物、通院等の多様な目的に対応</li> </ul>	●路線バス
	支線路線	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内の移動サービスを担う路線</li> <li>幹線路線と接続して市域外へのニーズに対応</li> <li>地域内の通勤、通学、通院、買物、観光等の多様な目的に対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内循環バス</li> <li>●乗合タクシー</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道、バス交通等（広域幹線軸、幹線路線、支線路線）を補完し、高齢者などの移動を支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般タクシー</li> <li>●スクールバス</li> <li>●福祉タクシー</li> <li>●ケアタクシー</li> <li>●福祉有償運送等</li> <li>●民間送迎車両</li> </ul>
交通結節点		<ul style="list-style-type: none"> <li>都市・地域間公共交通と地域内生活交通の乗継拠点で、待合空間としての機能の他に、地域の情報発信など魅力的で賑わいのある空間として機能強化を図るべき拠点</li> <li>公共交通機関相互の乗継ぎに加え、自動車・自転車等との乗継拠点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東金駅、求名駅、福俵駅</li> <li>●道路網の強みを活かした新たな交通結節点（パークアンドライド型バスターミナル）</li> </ul>

■輸送力と需要密度との関係による各公共交通システムの体系的位置付け



■公共交通システムのネットワークイメージ



道路網の強みを活かした新たな交通結節点の整備  
(パークアンドライド型バスターミナル)

- ↔ 広域幹線軸 (鉄道)
- ↔ 広域幹線軸 (高速バス)
- ↔ 地域内幹線路線 (路線バス)
- ↔ 地域内支線路線 (市内循環バス)
- ↔ 地域内支線路線 (乗合タクシー)
- 交通結節点 (鉄道駅、道の駅)

### 3. 東金市における総合交通計画の基本的な方針

#### 3-1. 基本理念

## 人・地域の暮らしを支え、便利で利用しやすい持続可能な公共交通ネットワークの構築

#### 3-2. 基本方針

##### ①機能・役割を明確化した地域内の公共交通ネットワークの構築

東金市の将来都市構造の骨格形成を支援し、地域の移動ニーズに合った交通サービスを提供するため、既存の公共交通の機能分担を明確にし、交通結節点として、東金駅をはじめとする鉄道駅に加え、高速バス路線の利便性を高めるため道路網の強みを活かした新たな交通結節点（パークアンドライド型バスターミナル）を位置付け、広域的な幹線軸と地域内生活交通が有機的に連携したわかりやすく利便性の高い公共交通ネットワークを構築する。

##### ②道路網の強みを活かした新たな交通結節点の整備とまちの活性化と連携した鉄道駅における交通結節点の強化

市民の多様な移動ニーズへの対応、観光振興、定住促進、総合戦略事業等との連携を図ることにより、安心・安全な市民の生活とにぎわいのある「とうがね」を創りあげていく必要がある。

そのため、千葉・東京方面への広域流動に対応するJR東金線及び高速バスへのアクセシビリティを高め、地域内生活交通や自動車等からの乗り換えが円滑にできる環境を整備する。さらに、圏央道や千葉東金道路、東金九十九里有料道路などの道路網の強みを活かしたパークアンドライド型バスターミナルを新たに整備する。

鉄道駅においては、交通機関の乗り換え空間の整備にとどまらず、乗換時に滞留する仕組みを構築し、まちの活性化と連携した交通結節点の強化を図る。

##### ③公共交通を利用しやすくするための環境づくりの促進

減少傾向にある公共交通利用者を増加に転じさせ、より充実させるため、既存の鉄道や路線バスの利便性およびサービスの向上などを促進する。

また、公共交通マップやホームページ等を通じて、運行ダイヤや運行状況などの交通情報、観光情報などを、市民のみならず市内在勤者、観光客が広く手軽に入手できるようにし、公共交通を利用しやすくする。

さらに、商業施設や観光施設との連携により、公共交通を利用するメリットを付加し、利用促進を図る。



#### ④地域内の既存交通システムの活用による移動手段の確保

東金市内の主要な幹線道路においては、民間バス路線が運行され、市民の移動の足として利用されている。しかし、バス停まで遠い、運行本数が少ないといった市民のニーズに十分対応しきれていない面もある。

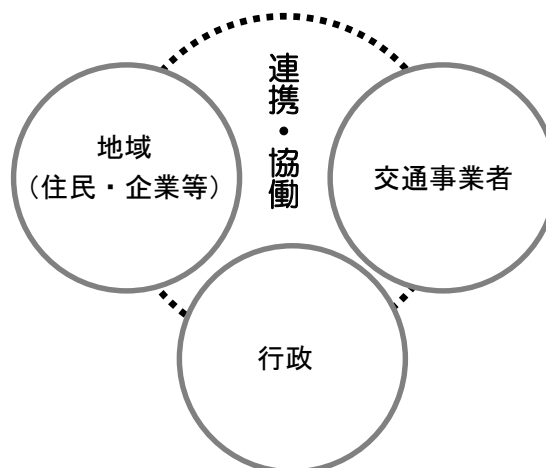
そのため、医療機関等の送迎車両を活用して、移動手段を持たない市民が安心して移動できる環境を確保するために、路線バスを補完する手段として、民間事業者の協力を検討する。

#### ⑤地域（住民・企業等）・交通事業者・行政との連携・協働による持続可能な公共交通を支える仕組みの構築

東金市の財政負担に限界がある中で、持続可能で利便性の高い公共交通の維持・確保を図るためには、交通事業者の自助努力や行政の支援だけでなく、市民が自ら地域内生活交通の維持・存続に対して責務を負う「協働」の意識が必要である。

そのためには、市民が地域の公共交通について、「みんなで創り、守り、育てる」という意識を持って一体的に関わっていく必要がある。

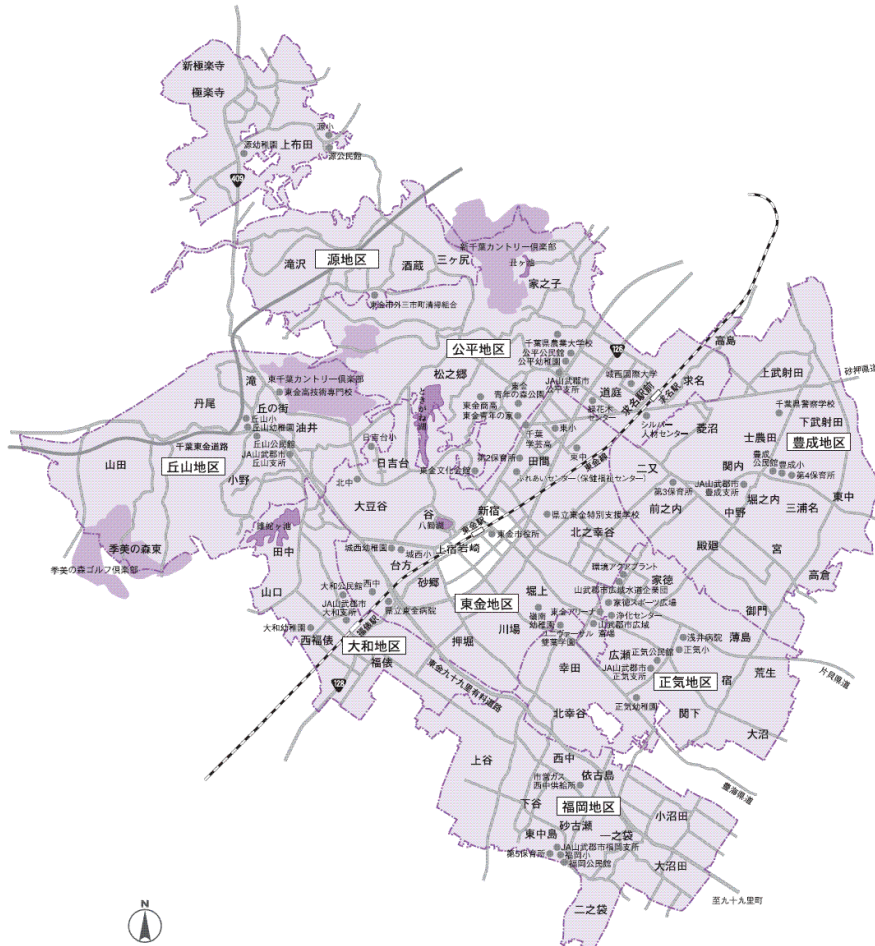
公共交通の確保のため、魅力ある、使いやすいものとしていくために、観光協会、商工団体、市民など多様な主体との連携・協働を図りながら、持続可能な仕組みを構築する。



### 3-3. 計画の区域及び計画期間

#### (1) 計画の区域

計画対象地域は、千葉県東金市全域とする。



#### (2) 計画期間

平成 28 年度から平成 32 年度の 5 年間とする。

## 4. 計画の目標

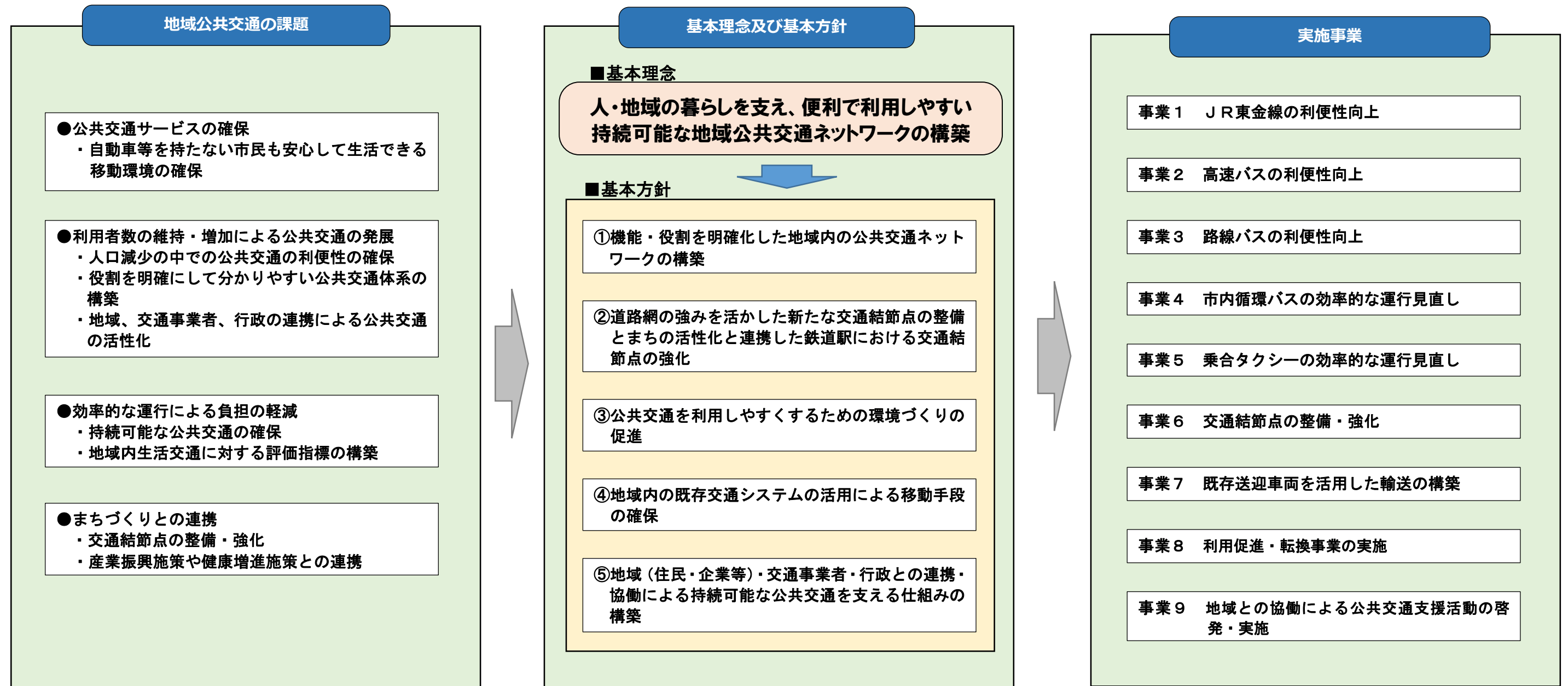
地域公共交通の目標は、基本方針それぞれについて、目標の達成状況を明確化するための目安となる指標と目標値を設定する。

### ■評価指標の目標値

基本方針	評価指標	指標の定義	現況値	目標値 (平成32年度)
全般	公共交通サービスへの満足度	市民アンケートにおいて満足であると回答された方の割合	38.4% (平成27年度)	増加
① ③ ④	移動環境の確保	市民アンケートにおいて外出時の移動手段に困っていると回答された方の割合	22.4% (平成27年度)	減少
② ③ ⑤	まちづくりとの連携	商業施設や観光施設等と連携した利用促進の取組みの件数	—	年1件以上
⑤	市民ニーズの把握	地域懇談会・シンポジウム・アンケート等の実施の回数	—	年1回以上
全般	利用者数 行政負担率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道の利用者数</li> <li>・ 高速バスの利用者数</li> <li>・ 路線バスの利用者数</li> <li>・ 一般タクシーの利用者数</li> <li>・ 市内循環バス（福岡路線）の利用者数</li> <li>・ 市内循環バス（豊成路線）の利用者数</li> <li>・ 乗合タクシーの利用者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100</li> <li>100</li> <li>100</li> <li>100</li> <li>100</li> <li>100</li> <li>100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100</li> <li>増加</li> <li>100</li> <li>100</li> <li>120</li> <li>120</li> <li>120</li> </ul>
		※平成26年度利用者数を100とする		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内循環バス（福岡路線）の行政負担率</li> <li>・ 市内循環バス（豊成路線）の行政負担率</li> <li>・ 乗合タクシーの行政負担率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>77.4% (80.2%)</li> <li>82.6% (85.1%)</li> <li>60.18% (—)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>65.0%以下</li> <li>74.7%以下</li> <li>減少</li> </ul>
		※（ ）内は車両償却費を含めた補正值		

## 5. 目標を達成するための事業及び実施主体

(全体図)



## ● 目標を達成するための実施事業

目標を達成するための実施事業は、以下のとおりである。

次年度以降の実施事業については、「地域公共交通再編実施計画」を検討し、関係機関及び地域住民の連携・協働のもと、実現していくものとする。

【事業1】 JR東金線の利便性向上	
概要	<p>東金市の広域基幹軸の機能を果たすJR東金線は、市民の移動手段として重要な役割を果たしている。</p> <p>そのため、利用しやすい運行サービスの実現を目指して鉄道事業者への要望を継続する。</p> <p>また、鉄道を利用しやすくするため、特に利用が多い東金駅・求名駅・福俵駅におけるバリアフリー化（東金駅及び求名駅の橋上化、福俵駅の老朽化による施設改良に合わせたスロープの設置等）について鉄道事業者への要望を継続する。</p> <p>○運行サービスの向上 （運行時間帯の拡大、東京・千葉方面への直通を含め運行本数増便、複線化）</p> <p>○東金駅・求名駅・福俵駅における駅舎のバリアフリー化</p>
実施主体	東金市、鉄道事業者
実施スケジュール	平成28年度～平成32年度 鉄道事業者への継続要望

### 東金駅及び求名駅の現状

#### 【東金駅】



#### 【求名駅】



【事業2】高速バスの利便性向上	
概要	<p>東京・千葉方面等への交通手段として、より利便性を高めるため、東京・千葉方面への速達性の確保や運行本数の増便等を行う。</p> <p>また、利用ニーズの高い路線の増便・新たな方面への路線の運行等について高速バス運行事業者に要望し、実現を目指す。</p> <p>さらに、運行の遅延情報を提供する情報案内システムを導入する。</p> <p>○運行サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行本数の増便</li> <li>・新たな方面への路線運行</li> </ul> <p>○バスロケーションシステムによる運行情報の提供</p>
実施主体	東金市、高速バス運行事業者
実施スケジュール	<p>○運行サービスの向上</p> <p>平成 28 年度～平成 30 年度 高速バス運行事業者と検討・協議 平成 31 年度以降 順次実施</p> <p>○バスロケーションシステムによる運行情報の提供</p> <p>平成 28 年度 高速バス運行事業者と検討・協議 平成 29 年度以降 実施</p>

【事業3】路線バスの利便性向上	
概要	<p>東金市内の日常生活の移動を支える地域内交通の幹線となる路線バスを維持するため、路線バス事業者と調整し、利用者にとって利用しやすい運行サービスの提供を行う。</p> <p>さらに、高齢者等に配慮し、低床バス（ノンステップバス、ワンステップバス）の導入を促進する。</p> <p>○運行サービスの向上（運行本数増便、鉄道とのダイヤ調整 等）</p> <p>○低床バスの導入促進</p>
実施主体	東金市、路線バス運行事業者
実施スケジュール	<p>○運行サービスの向上</p> <p>平成 28 年度～平成 32 年度 路線バス運行事業者と検討・協議・順次実施</p> <p>○バス車両のバリアフリー化</p> <p>平成 28 年度～平成 32 年度 順次実施</p>

【事業4】市内循環バスの効率的な運行見直し	
概要	<p>福岡地区及び豊成地区においては、市が運行する市内循環バス及び乗合タクシーが運行されていることから、両者を効率的に運行する観点から、明確な運行評価基準を設定し、ルート・ダイヤ等の運行計画の見直しを実施する。</p> <p>さらに、車両の更新に合わせて、車両購入の考え方を検討する。</p> <p>○運行評価基準の設定 ○市内循環バスの効率的な運行計画の見直し (ルート、ダイヤ、車両更新の検討等)</p>
実施主体	東金市、市内循環バス運行事業者、地域住民
実施スケジュール	<p>○運行評価基準の設定 平成 28 年度 基準の検討・調整</p> <p>○市内循環バスの効率的な運行計画の見直し（ルート、ダイヤ等） 平成 28 年度～平成 29 年度 運行計画の検討・協議 平成 30 年度以降 実施（必要に応じ見直し）</p>

【事業5】乗合タクシーの効率的な運行見直し	
概要	<p>乗合タクシーの利用促進と利便性を高めながら、以下の観点等から運行形態を見直し、効率的な運行を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●要望が多いさんむ医療センター等の市外における乗降場のあり方</li> <li>●乗合率の向上 ……複数人利用による割引等の導入など</li> </ul> <p>○乗合タクシーの運行形態の見直し（市外の乗降場、乗合率の向上）</p>
実施主体	東金市、乗合タクシー運行事業者、地域住民
実施スケジュール	<p>平成 28 年度～平成 29 年度 運行形態の検討・協議 平成 30 年度以降 実施（必要に応じ見直し）</p>

### 【事業6】交通結節点の整備・強化

概要	<p>外房地域の活性化を図り、高速バスをはじめとする交通結節点として、パークアンドライド型バスターミナルを新たに整備する。</p> <p>また、東金駅においては、鉄道・高速バス等への乗り換え利便性を高めるため、駅周辺の商業施設の駐車場を活用したパークアンドライドを検討する。</p> <p>○新たなパークアンドライド型バスターミナルの整備 ○東金駅における商業施設と連携したパークアンドライド</p>								
実施主体	東金市、バス運行事業者、商業事業者								
実施スケジュール	<p>○新たなバスターミナルの整備</p> <table border="0"> <tr> <td>平成 28 年度～平成 30 年度</td> <td>計画の検討・協議</td> </tr> <tr> <td>平成 31 年度以降</td> <td>順次実施</td> </tr> </table> <p>○東金駅における商業施設と連携したパークアンドライド</p> <table border="0"> <tr> <td>平成 28 年度～平成 30 年度</td> <td>関係者と検討・協議</td> </tr> <tr> <td>平成 31 年度以降</td> <td>順次実施</td> </tr> </table>	平成 28 年度～平成 30 年度	計画の検討・協議	平成 31 年度以降	順次実施	平成 28 年度～平成 30 年度	関係者と検討・協議	平成 31 年度以降	順次実施
平成 28 年度～平成 30 年度	計画の検討・協議								
平成 31 年度以降	順次実施								
平成 28 年度～平成 30 年度	関係者と検討・協議								
平成 31 年度以降	順次実施								

#### 【高速バスターミナルの事例：君津バスターミナル】

- ・高速バス以外に、路線バス・コミュニティバスの乗降場及びパークアンドライド駐車場を整備し、高速バスとの乗り継ぎ利便性を確保している。





【事業7】既存送迎車両を活用した輸送の構築	
概要	市内を運行している送迎車両の運行実態を把握し、送迎車両に施設利用以外の住民が混乗する仕組みを構築し、民間事業者の協力を得ながら、地域住民の移動の足を確保する。  ○事業者の送迎車両を活用した施設利用以外の地域住民の混乗
実施主体	東金市、送迎車両を運行する事業者
実施スケジュール	平成28年度 検討 平成29年度以降 関係者と協議、順次実施

**【事例】大網白里市における事業者の送迎車両を活用した施設利用以外の地域住民の混乗**

・大網白里市では、高齢者の外出支援として、市が医療法人社団鎮誠会と協定を締結し、増穂地域を運行する『季美の森整形外科』の送迎バスに、事前に市に利用申請をした高齢者の方が混乗している。



【事業8】利用促進・転換事業の実施	
概要	公共交通の利用者を増加させるためには、総合的な公共交通マップの配布などの情報提供の充実を図るとともに、小中学生や高齢者等を対象としたバスの乗り方教室の開催など、公共交通の利用啓発や潜在需要の掘り起こしのための施策を展開（毎年、企画・実施）する。 また、商業施設・観光施設等へ公共交通で移動しやすい環境を創出し、観光客等の回遊性の向上による交流の活性化を促すため、商業施設などと連携し、公共交通利用者に対する割引などのサービス等について検討を行う。  ○お試し乗車券の配布 ○園児・小中学生・高齢者を対象としたバスの乗り方教室の実施 ○商業施設・観光施設等との連携事業（公共交通割引チケット等の導入） ○公共交通の総合的情報等の提供 （公共交通マップ、ホームページによる情報提供 等） ○公共交通を利用した外出行動の移動モデルプログラムの提供 ○モビリティマネジメントの実施
実施主体	東金市、交通事業者、商業・観光事業者
実施スケジュール	平成28年度～平成32年度 企画・実施 商業施設・観光施設等との連携事業については、関係者と検討・協議後、順次実施

**【事例】バスの乗り方・交通バリアフリー教室の開催**

・八街市と関東運輸局千葉運輸支局が主催となり、運行に使用されている車両を用いて、バスの乗り方について説明・乗車体験するとともに、車いす利用体験、視覚障がい者疑似体験を行った交通バリアフリー教室を開催。



**【事例】浜松市・遠鉄バス「お帰りきっぷ（無料乗車券）」サービス**

・遠鉄バスでは、遠鉄百貨店、遠鉄ストア、イオンモール、温泉施設等と連携し、買物金額等に応じて利用可能区間の「お帰りきっぷ（無料乗車券）」を発券している。



**【事例】松本市 西部地域コミュニティバス「特典ポイントカードサービス」**

・コミュニティバスを1回利用するごとに、ポイントカードに1個スタンプを押印し、一定量（15個分）たまったらところで、提携している店舗等から特典サービスが受けられる。



**【事例】総合公共交通マップ（豊橋市）**

**A 豊橋市 全体図** 2016年1月12日現在  
**豊鉄バス**  
**コミュニティバス**  
**B 豊橋市 公共交通マップ 2016年版**  
**C 豊橋市 公共交通マップ 2016年版 最終便時刻表**  
**D バスの利用案内**  
**E 路面電車の利用案内**  
**F 鉄道の利用案内**

### 【事業9】地域との協働による公共交通支援活動の啓発・実施

概要	<p>公共交通を持続可能なものにしていくためには、行政や交通事業者だけではなく、地域住民自らが公共交通を創り・守り・育てる意識を持つことが不可欠である。</p> <p>そのため、東金市における公共交通の現状についての情報発信やシンポジウムの開催等により、マイバス意識の向上や地域住民によるバス停の環境改善（定期的な清掃等）など、協働による持続可能な仕組みづくりの構築を目指す。</p> <p>とくに、福岡地区及び豊成地区においては、地域が主体となって市内循環バスの利用促進活動を実施する。</p> <p>○公共交通の運行実績等の情報発信 ○公共交通に関する勉強会・シンポジウム及び地域懇談会等の実施 ○地域ぐるみによる仕組みづくり</p>
実施主体	東金市、交通事業者、地域住民
実施スケジュール	平成 28 年度～平成 32 年度 継続実施

#### 【事例】埼玉県日高市における公共交通の勉強会

- ・60 歳以上の方を対象とする「ゆうゆうカレッジ」の1つのテーマとして、公共交通勉強会を開催し、公共交通への理解を深めている。



■実施スケジュール

事業名		実施主体	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度
① J R 東金線の利便性向上		東金市 鉄道事業者	●―――継続要望、求名駅駐車場事業継続―――→				
② 高速バスの 利便性向上	②-1：運行サービスの向上	東金市 高速バス 運行事業者	●―――調整―――→		●―――順次整備―――→		
	②-2：バスロケーション システムによる運行情報 の提供	東金市 高速バス 運行事業者	●―――調整―――→	●―――実施―――→	●――――――→		
③ 路線バスの 利便性向上	③-1：運行サービスの向上	東金市 路線バス 運行事業者	●―――検討・協議、順次実施―――→				
	③-2：低床バスの導入促進	東金市 路線バス 運行事業者	●――――――→				●―――順次整備―――→
④ 市内循環バス の効率的な 運行の見直し	④-1：運行評価基準の設定	東金市 市内循環バス 運行事業者 地域住民	●―――検討・協議―――→		●―――運用開始―――→		
	④-2：市内循環バスの効率的 な運行計画の見直し	東金市 市内循環バス 運行事業者 地域住民	●―――検討・協議―――→			●―――実施（必要に応じ見直し）―――→	
⑤ 乗合タクシーの効率的な運行見直し		東金市 乗合タクシー 運行事業者	●―――検討・協議―――→		●―――実施（必要に応じ見直し）―――→		
⑥ 交通結節点の 強化	⑥-1：新たなパークアンド ライド型バスターミナル の整備	東金市 バス運行事 業者	●―――検討・協議―――→			●―――順次整備―――→	
	⑥-2：東金駅における 商業施設と連携した パークアンドライド	東金市 商業事業者	●―――検討・協議―――→			●―――順次整備―――→	
⑦ 既存送迎車両を活用した輸送の構築		東金市 送迎車両を 運行する 施設事業者	●―――検討―――→		●―――順次実施―――→		
⑧ 利用促進・転換事業の実施		東金市 交通事業者 商業・観光 事業者	●――――――→				
⑨ 地域との協働による公共交通支援活動の 啓発・実施		東金市 交通事業者 地域住民	●―――継続実施―――→				

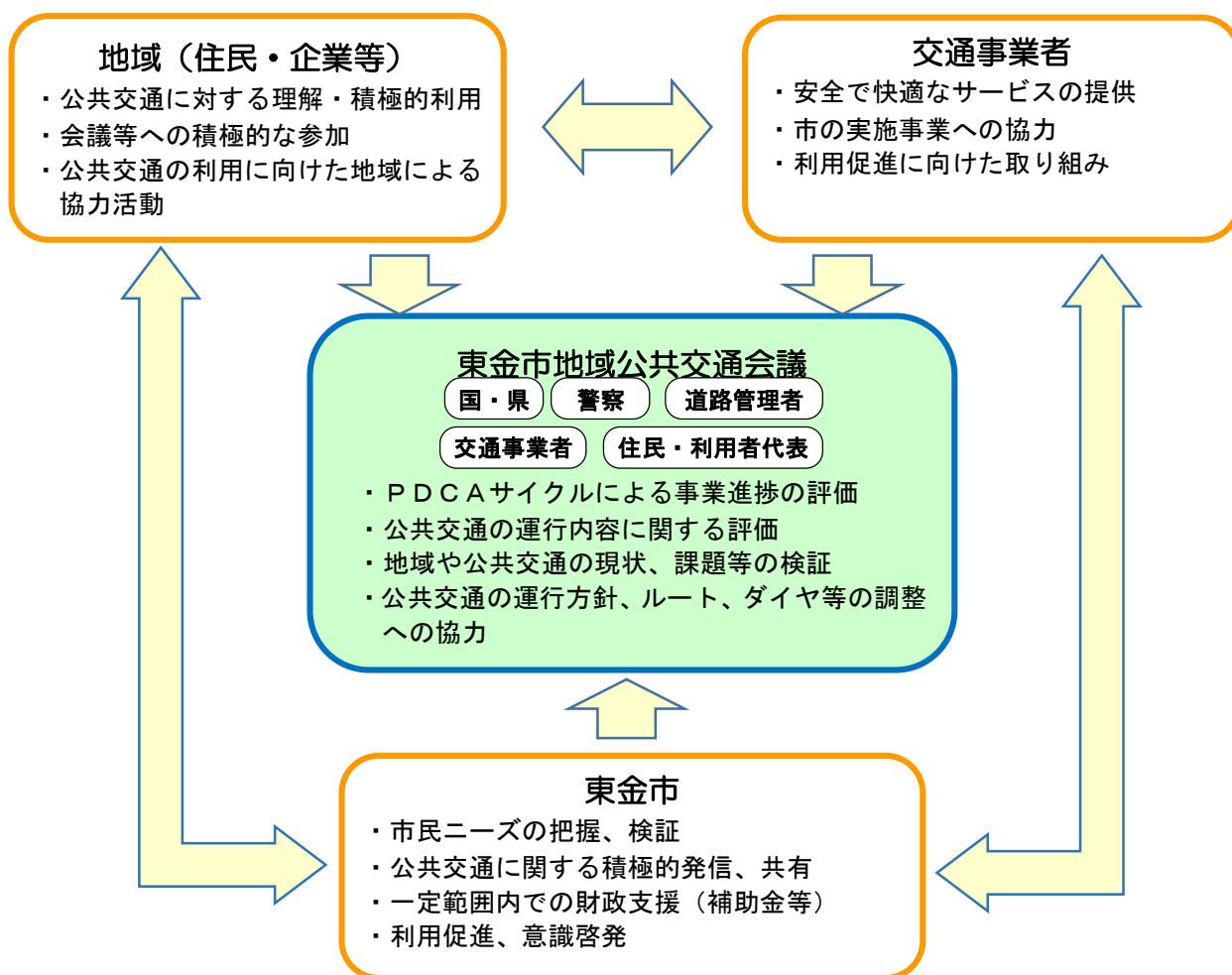
## 6. 計画の達成状況の評価

### (1) 計画の実施体制

本計画の実施にあたっては、地域住民（住民・企業等）・交通事業者・行政が連携・協働し、一体となって総合的に取り組んでいくことが必要不可欠である。

そのため、以下のような役割分担を行いながら、各事業に協力して取り組むための体制づくりを進める。

#### ■本計画推進のための地域（住民・企業等）・交通事業者・行政による協働体制

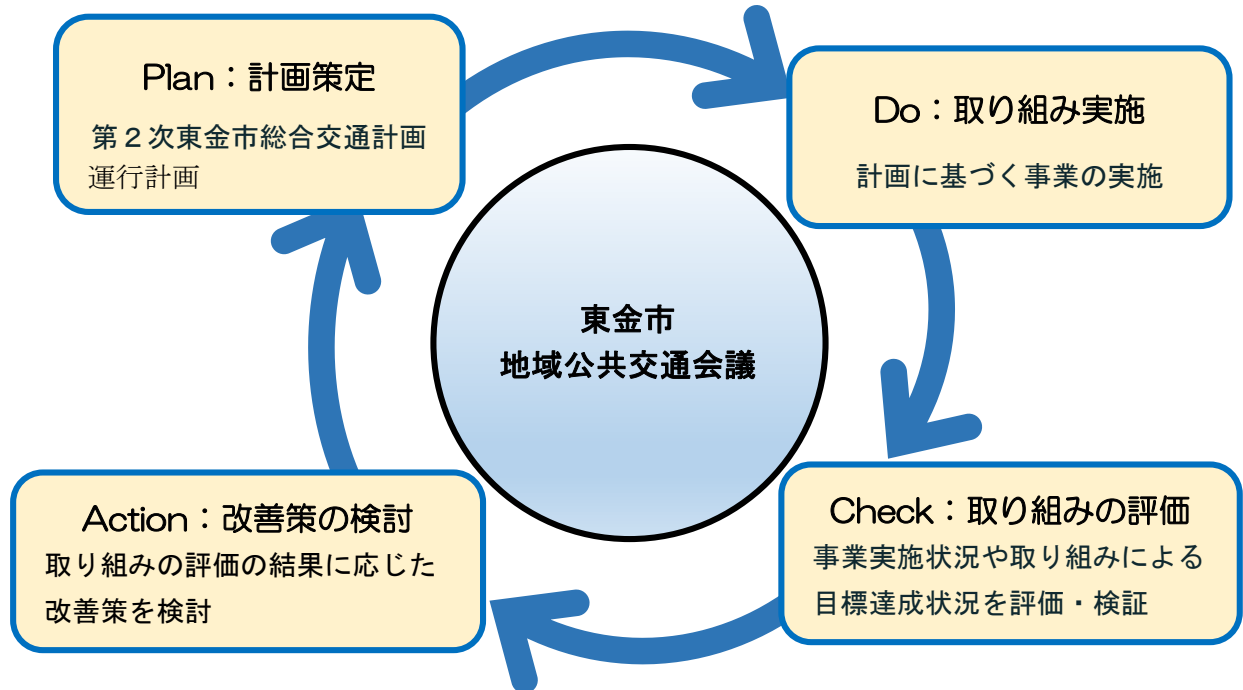


## (2) PDCAサイクルの実行

第2次東金市総合交通計画を着実に推進するためには、目標の達成状況や利用状況などを評価し、必要に応じて見直し、改善するという「PDCAサイクル」に基づく評価・検証が重要なため、計画上で定めた数値目標との比較だけでなく、地域公共交通の利用状況など各実施事業の成果も把握し、適宜評価を行う。

本計画のPDCAサイクルの実行は、東金市地域公共交通会議が主体に行い、進行管理を実施する。

### ■PDCAサイクルの概念



### (3) 評価の方法及びスケジュール

計画の評価は、計画期間の最終年度（平成 32 年度）には各種アンケート調査を踏まえ、計画全体及び地域公共交通全体の再編の評価・検証を実施し、必要に応じて計画の見直しを行うなど次期計画の策定を検討する。

利用状況及び計画に定めた事業の実施結果に関する評価については、毎年度実施する。

#### ■評価スケジュール

項目		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
評価方法	利用者数調査 ※1	●	●	●	●	●
	利用者アンケート調査			○		●
	市民アンケート調査 ※2	●	●	●	●	●
事業実施の評価		●	●	●	●	●
計画の評価						●
計画・目標値の見直し				○		☆
地域公共交通会議の開催		●	●	●	●	●

凡例 ●：実施 ○：必要に応じて実施 ☆：次期計画の検討

※1 事業者よりデータ提供

※2 市民アンケート調査では、「公共交通の満足度」について評価・検証する